

生きている!

監督 ● 清水浩 脚本 ● ダンカン 配給 ● 日本ヘラルド映画・オフィス北野 音楽 ● MAYA
 出演 ● ダンカン/大河内奈々子/尾美としのり/左右一平/温水洋一/グレート義太夫/岸博之/三橋貴志/砂丘光男
 春木みさよ/小倉一郎/石田太郎/村野武範

ロカルノ国際映画祭ディレクター
マルコ・ミュレル

今回の映画祭で私が一番愛した映画を、
 8000人の観客が笑い、そして泣いたこ
 とは最もエキサイティングな瞬間だった。

釜山国際映画祭アジア映画プログラマー
キム・ジソク

“生”（きる）という事は、大切な事であると
 同時に、いかに冷酷な事であるか、清水
 監督は、この“生”の両極端を
 新人監督らしからぬ巧みな
 演出力で表現してゆく。

バンクーバー国際映画祭プログラマー

トニー・レイズ

『生きている』の中には、笑顔の裏にある悲
 しみと、絶望を越えた喜びを見出すことが
 できる。

『生きている』は「ビター・スウィート」
 という言葉に新たな意味を与えてくれる。

各国の国際映画祭に出品！！

- ☺ロカルノ国際映画祭（スイス） オフィシャル・コンペティション部門 アキュメニカル特別賞受賞
- ☺釜山国際映画祭（韓国） ニュー・カレンツ部門 国際審査員最優秀作品賞受賞
- ☺トロント国際映画祭（カナダ） ニュービート・イン・ジャパン部門
- ☺バンクーバー国際映画祭（カナダ） ☺サンパウロ国際映画祭（ブラジル）
- ☺ランコントレ国際映画祭（フランス） ☺ロンドン国際映画祭（イギリス）
- ☺テサロニキ国際映画祭（ギリシャ） ☺ロッテルダム国際映画祭（オランダ）
- ☺イエテボリ国際映画祭（スウェーデン）



監督/清水浩

1964年5月26日生まれ。京都府出身。
 1985年横浜放送映画専門学院（現日本
 映画学校）卒業後、フリーの助監督とし
 て活躍。主に製作会社セントラルアーツ
 の作品につく。『ソナチネ』から北野武
 映画に参加、『みんな～やってるか！』
 からはチーフ助監督として北野演出をサ
 ポートする。主な助監督作品に
 『ア・ホーマンス』（86 松田優作）
 『赤と黒の情熱』（92 工藤栄一）
 『HANA-BI』（98 北野武）
 などがある。今回の『生きている』が監督
 デビュー作品となる。

1959年1月3日生まれ。埼玉県出身。1982年立
 川談志一門に入るが、漫談に方向転換して、
 1983年にたけし軍団に入団。別名“泣きのダ
 ンカン”といわれる。『スーパー-JOCKY』『
 世界のたけし、足立区のたけし』などにレギ
 ュラー出演。また放送作家としても活躍し
 ているが、最近では役者としても注目を浴びて
 いる。ライターとしても、『VOWスペシャル平
 成順を出せない偉人伝』（宝島社）、『ダン
 カンのTVギョーカイ就職読本』（角川書店）
 など数々の著書がある。
 主な映画出演作品に
 『みんな～やってるか！』（95 北野武）
 『8月の約束』（95 石井克人）などがある
 『生きている』は初めて手がけた自らのオリジ
 ナル脚本であり、“新垣”というツアー客を
 自殺へと導く水先案内人を、そのユニークな
 個性で熱演している。



脚本・主演/ダンカン

11月6日までテアトル新宿にて絶賛上映中！！

料金 一般 1800円 大・高生 1500円 中学・シニア 1000円

テアトル新宿

新宿駅東口伊勢丹新館となり

☎03-3352-1846

第51回ロカルノ国際映画祭 アキュメニカルプライズ受賞

スイスのイタリア語圏地域に位置する保養地ロカルノで開催されるロカルノ映画祭は今年で第51回を迎える世界でも有数の歴史を誇る映画祭である(因みに、世界で最も歴史の古い映画祭ヴェネチアは今年で第55回、カンヌはロカルノと同じく今年で第51回である)。

ロカルノ映画祭をもっともユニークに位置づけているものは、街の中心に位置する広場ピアッツァ・グランデで行わ

れている。「秘密と嘘」のマイク・リーが1972年に「ブリーク・モメント」で金豹賞を受賞、「さらば、我が愛/霸王別姫」の陳凱歌(チェン・カイコー)が1985年に「黄色い大地」で銀豹賞を受賞、そして昨年のパルム・ドール「桜桃の味」のアルツバス・キアロスタミは1989年に「友だちのうちはどこ?」で銅豹賞を受賞しているのである。また、「黄色い大地」が中国映画ブームの「友だちのうちはどこ?」がイラン映画ブームの発端となつたことを考えると、ロカルノ映画祭は欧州におけるアジア映画評価の先端を担ってきたと言ってもいいだろう。

特徴あるコンペティションとともにロカルノ映画祭に独特なステイタスを与えているのが、毎年大々的に行われるレトロスペクティブ(回顧上映)である。ロカルノ映画祭のレトロスペクティブは、ひとりの映画作家の作品を可能

な限りすべて集めて行うことで定評があり、ここ最近ではアッバス・キアロスタミ、エジプトの巨匠ユーセフ・シャヒーン、アメリカの喜劇映画監督フランク・タシユリらの全作品が上映され、大きな話題を呼んだ。日本の映画監督では過去に木下恵介と成瀬巳喜男がとりあげられたことがある。なお、今年の映画祭に於いて、イタリアの巨匠マルコ・ペロッキオの特集が予定されている。

80年代に多大な実績を残したディレクター、デヴィッド・ストライフに代わり、1992年からイタリアの批評家マルコ・ミューレルがディレクターに就任したことにより、ロカルノ映画祭は新たな時代を迎えている。ミューレルはストライフの方針を継承し、コンペティションで上映する作品の定義を「新人監督の作品及び映画の形式を刷新する画期的な作品」として性格づけた。その一方、従来

生きた!

— OCIC — INTERFILM —

THE INTERNATIONAL
ECUMENICAL JURY
OF THE CHRISTIAN CHURCHES

at the 51st International Film Festival
of Locarno 1998

RECOMMENDS

Hiroshi Shimizu
for his film IKINAI (Japan)

The Chairman of the Jury

The Secretary of the Jury

ヨーロッパの映画祭では敬遠されがちであった娯楽映画にも目を向け、主としてコンペ外特別上映の形でこのような作品を上映した。因みに、昨年は「フェイス・オフ」、「メン・イン・ブラック」、「陰謀のセオリー」等ハリウッドの大作が上映された他、世界的に大ヒットしたイギリス映画「フル・モンティ」がプレミアア上映されて話題を呼んだ。アジア映画の権威としても知られるミューレルの趣味を

反映して、近年のロカルノ映画祭では、アジア映画の活躍が目立つ。昨年はイラン映画「鏡」(監督: ジャファール・パナヒ)が金豹賞を獲得し、香港映画「メイド・イン・ホンコン」(監督: フルート・ホンコン)が審査員特別賞を受賞した。1985年にしている。又、昨年はミッドナイト・スクリーンングの形で加藤泰監督作品がまとめて上映され、その独特の美学がヨーロッパの観客を魅了した。

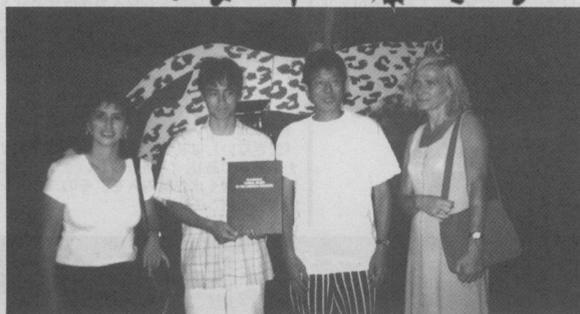
なお、日本映画については過去1961年に市川崑監督の「野火」が最優秀作品賞を、1970年に実相寺昭雄監督の「無常」が金豹賞、柳町光男監督の「火まつり」が銅豹賞を獲得している。また、1992年には林海象プロデュース、永瀬正敏主演の「アジャン・ベルト」シリーズの香港篇「オートム・ムーン」(監督: クララ・ロー)金豹賞を受賞している。

れる屋外上映である。26x14mの巨大スクリーンの設置された会場は公式には7000人収容とされているが、ジム・ジャームツシユの「ミステリー・トレイン」には9200人、デヴィッド・リンチの「ワイルド・アット・ハート」には9400人の観客が集まった。ロカルノ映画祭の入場人員は年々上昇を続け、現在ではその映画の入場者は15万人を越えると言われ

1946年に発足したロカルノ映画祭は、1951年と1956年を除き、現在に至るまで毎年開催されてきた。第1回の最優秀作品はルネ・クレール監督の「そして誰もいなくなった」。以後第2回はルネ・クレールの「沈黙は金」、第3回はロベルト・ロッセリーニの「ドイツ零年」と、最優秀作品には映画史上の名作が名を連ねている。今から20数年前に、ロカルノ映画祭はカンヌ映画祭

(5月)とヴェネチア映画祭(8月下旬〜9月上旬)の間に位置する時期(8月中旬)に開催期間を設定した。このため、ロカルノ映画祭は「新しい映画作家の発見」という特色をそのコンペティションの選定の主旨とする。この差別化をはかり、その結果、多くの若手映画監督達がロカルノを起点に世界へ飛び出してゆくことになった。例えばニユートーク・インディーズの

双壁とも言うべきジム・ジャームツシユとスパイク・リーは、いずれも長編デビュー作がロカルノで受賞を果たしている(ジャームツシユの「ストレンジャー・ザン・パラダイス」は、1984年の金豹賞、リーの「ジョーズ・パッシング」は1983年の銅豹賞)。また、ロカルノ映画祭は、近年カンヌ映画祭で最高賞パルム・ドールを受賞した3人の監督の作品をいち早く紹介したことも知ら



生きた!

11月6日までテアトル新宿にて
絶賛上映中!!

テアトル新宿

新宿駅東口・伊勢丹新館となり
☎03-3352-1846
毎週水曜日映画サービスデー1000円均一